

会員のひろば

題字：倉林 順一

◇「育ちと学び」

23号を読ませていただきました。とても読み応えがありました。

全体的な共通項として、「具体的である」ということを感じました。「県立盲学校のレポーター」、「若者のひろば」、「教育予算の充実を」、「アイスランドに学んで・・・」などが、その最たるものだと思います。とても良かったですね。

最近、「具体的なもの」にとっても関心があります。漢文学者・漢字学者の白川静さんの本を読んだことがそのきっかけです。本の中で、「美しいとは、羊を上から見た形である。」というようなことをおっしゃっていました。古代において、「美」という極めて曖昧な『概念』が、「羊」という具体的な『もの』で表現されていたことに衝撃を受けました。人を迷わせるような言葉でこねくり回して語られがちな『概念』ですら、具体的な『もの』である。これを読んでから「具体的なもの」に注意して

みているのですが、それはとても多くのことを教えてくれます。今回の記事にも多くのことを教えていただきました。

盲学校というのは存在自体は多くの人が知っているだろうけど、実態を知る人は多くはないと思います。その実態は、記事にもありましたが、一般的に想像されるような不自由さや不快さなどとは真逆のものであるということが伝わってきました。それこそ、健常児が通う学校と変わることのない学びや生活がそこにあるわけですね。それは世の中の「可哀想な人たち」というイメージを逆転させるものになると感じました。この記事の最大の手柄はそこにあるのだとおもいます。

以前、吉田松陰の言葉を本で読み、死生観が変わり、障がい者の方への意識も変化しました。「可哀想」と思わなくなりました。「人間、幸も不幸も、富も貧もさして意味もなく、生まれ死ぬまで生きるだけだな」と思うようになり、その延長線上に「健常者と障がい者に違いがないな」という思いも生まれました。それ以来、「可哀想」という見方はなくなりましたが、今回の記事はその思いに実態を与えてくれたようで嬉しく思いました。松本さんの文章でよりそのことを具体的に知ることができました。

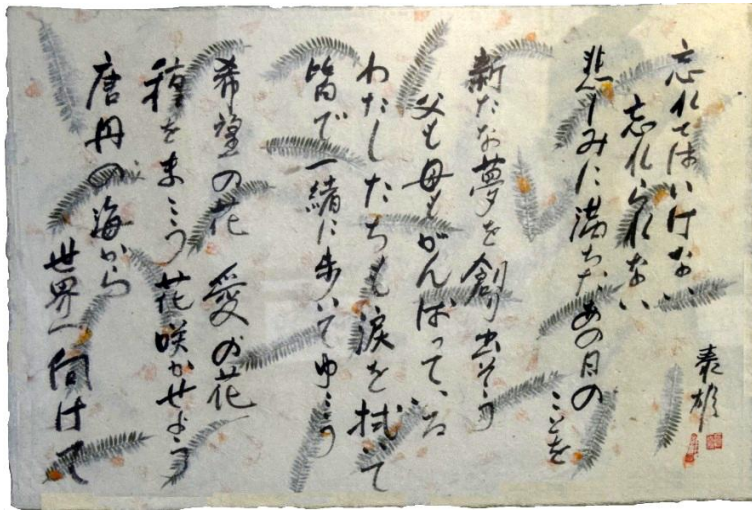
「教育予算の充実を」も、とても気になっていることを現場の方の言葉で知ることができ勉

強になりました。ここでも「具体的なもの」がとても効いていてよかったです。外からみると、現場の教員・職員によるかなりの負担が前提となって今の学校教育がなんとか成り立っている印象です。「いつパンクしてしまうのだろう？」と心配になります。そこに、学力テストの結果公表のやりわりの圧力や、道徳の教科化の推進（これは本当に教師の負担になると思います）などが加わり、さらなる大変な状況を想像してしまいます。少しでも現場の教師の大変さが一般に広まることで、改善できることもあるように思います。

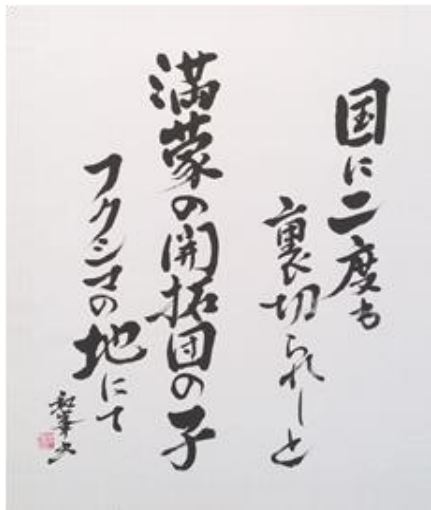
「育ちと学び」は主に学校関係者が読むのかもしれませんが、記事にすることで外への広がり可能性がありますので極めて重要なことだと思います。長くなりましたが、今号を読んだの感想になります。

（高崎市・成瀬雅俊）

◇遅くなりましたが、明けておめでとうございませう。教育文化フォーラムを去つてもう数年経ちますね。教育の大切さはそれなりに分かっているつもりでした。しかし、三年程でしたが教育文化フォーラムに関わったことで、教育とは、教育現場の状況、教師とは、学校とはを具体的に見させて頂き、貴重な体験をさせて頂いたと思っております。



堀 泰雄さん 被災地からのメッセージ



森 和恵さん

2ページ 誌上ギャラリーからのつづき

そして、失礼な表現かもしれませんが、教師職とはすばらしい職業だと今では理解していません。教育によって子供は育ち、人格を持った人に育ちます。それを育てる職業が教師ですね。とても責任ある職業ですね。時代に流されず何が正しいかを考えられる子供を育てるためのフォーラムの働きを期待しています。

また教職者以外の方もフォーラム運営委員に加わり、共に教育を考える場となることを望んでいます。いろいろな立場の人がワイワイしながら楽しく希望を持って住み良い社会を作るために語れるフォーラムになることを心より願っています。

(前橋市・藤原麗子)

◇うしろから読んでも、前から読んでも面白いニュースでした。なかでも味わい深かったのは、盲学校の生徒さんによる「きゆうり」という詩。やわらかい土から長くいつるに導かれてトゲトゲの実に指が触れた瞬間の心ときめき！まさに高橋秀典先生のおっしゃる「感動の中心」があると感じました。たわしのようにはガラガラと葉っぱという感覚も「視覚」に邪魔されている私たちが見落としてしまうはずのもです。頭の中でたわしをもて遊びながらさらさらの世界を発見しました。惜しむらくは近現代史ゼミの活動報告です。とても大切なことが

書かれているのはわかっているのですが、今ドキの高校生みたいにしてしまいました。

(高崎市・エイムズ唯子)

◇盲学校の紹介に続き、松本英樹さんの66歳の人生の文に感動しました。在職中、新聞部で訪問したことがあるので、その時の高校生(寄宿生)の生活、独立心に驚いた昔を思い出しています。誌上ギャラリー 楽書会の作品楽しいです。イラストも楽しいです。

(沼田市・加藤雪子)

◇この度二〇一五年一月三十一日をもちまして、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団を退職いたしました。三十三年間の在職中は一方ならぬご懇情を賜り、誠にありがとうございました。幸い今後は日中両国の大学で学生教育に携わることになりました。三月からは中国黒竜江省にあるハルビン師範大学の専任教員として、また来年度は新潟大学においても非常勤講師として考古学講義を行うことになりました。戦後七十年の節目の年に日中両国で学生教育に携わることには大変に意義あることでないかと思っております。今後ともよろしくご指導の程よろしくお願い申し上げます。

(高崎市・菊池 実)